

第2回意見交換会 当日の主な意見

チーム1

○地域における活動

- 上野における道路活用イベントを実施している。ひとにやさしいまちや居場所づくりを目指している。「日常」「豊かさ」の価値の視点から見直したい
- 養蜂やまちづくりたいとうの活動、北部地域での A-ROUND の活動を行っている
- 入谷のビルで、イベントスペース、シェアオフィス等をやっている
- ウォークラリーや養蜂を実施している
- マンション理事会における活動、区内における設計事務所としての活動、区有施設の点検、空き家対策、よろず相談などを行っている
- 台東区北部地域で、高齢者や障害者を含む生活のケアを行っている。近年進んでいる市街地更新が、地域にとって良いジェントリフィケーションとなるとよい
- 音楽(合奏、コーラス)のイベントを社会教育館4館で実施している。まちづくりはソフト中心に支援をいただきたい

○新旧の住民

- 町会行事として、お祭りやラジオ体操などの活動を行っている。マンション住民と町会の関わりが薄い印象である
- 従来の住民に対し、外国人居住者が増え、次世代の新住民も想定され、そこに大きなクレバス(深い割れ目)がある
- 銭湯がなくなったことによるコミュニティ意識の低下がみられる
- マンションでの挨拶励行や、町会のもちつき大会への参加などでつながりを作っている。その活動を継続していくために、活動場所や活動費用に対して行政サポートやNPO等の支援余地がある
- マンション住民と商店街・町会との関係は、子どものつながりや集会場の活用で構築しやすくなるのではない

○まちづくりとは

- 地域は何百年もの歴史があり、歴史を踏まえた議論が望ましい
- 誰がまちづくりを担うのかがまず重要であり、上野はこのままでいいのかと課題認識をもって、リスタートする
- まちづくりの目的、誰のためのまちづくりか(観光か住民かなど)を明確にし、様々な人が参加し易く、コミュニティ形成が期待できるような、区民が声をあげる場所づくりが必要。さらに行政等との責任分担の仕組みや情報発信が必要である
- エリアの評価をどう考えるかが検討する必要がある。地価ではなくシビックプライドのようなものではないか
- 上野と浅草では地域特性が大きく異なることに留意が必要である
- 区役所には都市計画や観光など様々な部署があるが、オール台東区としての窓口が必要である

チーム2

○身近な活動

- まちの人を対象に、ちょっと手を貸したり声をかけたりしてまちでコミュニケーションを取る活動を行っている
- 池之端や根津あたりで定休日を活用してジェラートを販売しながら、コミュニケーションを取る活動(赤ちゃんおしゃべり会、小学生コラボ、フリーコーヒー)を行っている

○街並みの保全

- 昔ながらの街並みを保全する活動を今後やりたい
- 環境部会(谷中)での街並み保全活動を実施している

○環境・清掃・防災活動

- マンション街で土づくりや花、野菜を育てる活動を実験的に実施しており、これをきっかけに通りがかりの人と会話が生まれているので、区民農園、緑の芝生のある公園があったら今後活動したい
- サンデークリーンとして、月に一回程度清掃活動を行い、終わったあとドリンクの時間を楽しんでいる
- マンション単位での防災活動を行っている
- 根岸地区(3~5丁目)で都市復興訓練に参加した(発災時の復興まちづくり)

○イベント

- マンション内コミュニティのきっかけづくりとしてロビーコンサートを行っている
- マルシェのような、主催側と来場者が分かれるようなイベントは、つながりや一体感、コミュニケーションが生まれにくいように感じる。まちづくりはイベントではなく持続性が重要だと思う
- 谷中たいこの会は、子どもが住み続けるまちに貢献できるため、良いと感じた。子どもが中心となる行事は子どもがこのまちに住み続けたいという気持ちにつながるため、持続性があると感じる
- PTAのOBの方達などを対象とした小サークルの活動支援を行っている
- まちづくりカレッジの運営補助を行っている
- マンション内のコミュニティ醸成のためマンションロビーでのコンサートを仕掛けたいが、その企画を各マンションに提案するにあたり、活動に対する区の後援がほしい
- 区より、様々な活動(活動の周知、備品レンタル代、その他運営にかかる費用)に対して少額でもいいから資金支援があるといい
- 区役所職員(係)で情報共有していないので、行事が重なる

○情報発信

- 小学校学区域での子ども情報配信(町会からの支援)を行っている ※文京区も一部対象
- 不登校の子、障害のある方など、様々な人に幅広く参加してほしいので周知が必要である
- オープンスペースでの開催時の気候の問題(酷暑、雨天など)がある。場所の環境や提供などに関する情報発信があるといい
- 情報発信について、区のHPの階層が深く見づらい。まちづくりに関しては外部サイトをつくるなどの支援が区であるといい。老若男女、誰にでも伝わりやすい広報をするための支援が必要である

- LINE を使っているが、月額料金が必要なることから、区からの支援があるといい

○制度

- 都市計画の変更が必要である。用途地域は商業地域がほとんどであるが、実際は住宅が主体の地域であるなど実態と乖離がある。商業地域では容積率が高いので高層のマンションがどんどん建っている。地域特性に応じた用途地域にする必要がある
- 分野横断の活動が多いが、区の体制に横くしとなる所管がない

○町会等

- 町会内の参加にハードルがある。町会が何をしているか分からない人もいる。参加する人も少なくなっている
- 町会問題は区民部で調整しているが、別に違う部署をつくるかどうか検討課題ではないか
- 今までの町会をリスペクト(尊敬)しつつ、町会に権限を付与しながら活動を推進したらよい。区は町会に色々なことを頼みすぎている
- 昔ながらの街並みを保全する活動について、文化遺産を残す意見と、古い物は要らない意見が対立している
- 谷中以外の人から、谷中について色々と言われる。自分たちで保全活動しようとしても、外部の人から反対意見があっとうまく進まない場合がある

チーム3

○小さく始める区民スケールの活動

- ソフトとハード、どちらかではなくどちらの活動も大切である
- 自分が自ら主体となったり、誰かの活動に参加したい
- お金の得方が分かりにくい。補助金(助成金)の支援の仕組みを分かりやすく伝えてほしい
- 少しスペースがあれば、まずは小さなことから活動を始められるような仕組みづくりが重要である
- まちづくりカレッジを通して、地域のお手伝いをしている。まちづくりに関する意識を向上させたい
- 地域コミュニティが衰退している。人が居たくなるリラックスできる空間づくりが必要である

○増えていく外国人との共存

- コロナ前より外国人が増えすぎている
- 民泊が増えているが、隣の家に住んでいる外国人が住民か旅行客か分からないと不安感を覚える
- 外から来訪者を受け入れすぎなのではないか

○人を巻き込みやすくする町会の仕組みづくり

- 青年むつみ会に参加している。活動をやればやるほど楽しくなってくる
- 町会に入ったきっかけは、先輩に誘ってもらった。声をかけてもらえると入りやすい
- 普段暮らしていて、町会について知る機会がない。お金を徴収されるときだけ意識する
- 普段の生活で、町会には入ってなくても困らないので、入りたいと思うきっかけがない
- 町会の活動には中学生くらいまでの子どもは集まってくれる。それ以上の若者は来てくれないことが課題である
- 町会費が集まらなくなってきた。町会費を払わない企業もいる
- 町会に人が居ないので、三社祭の準備する人が居ない
- 町会に参加はしても、今後どうなっていくか、今後が見えない不安感がある
- 年に1回限りのイベントをやるばかりでは、まちに人は集まらない。次につながらない
- 子どもが外に転出してしまうと、町会は衰退してしまう
- これまで町会に参加していない新しい人を取り入れるために、新しい人が参加しやすいしくみが必要ではないか
- お祭りの時、うるさいと感じてしまう

○キャッチボール・花火ができるスペースづくり

- 西浅草公園で子どもを遊ばせている
- 区内にボールを思いっきり投げる場所がない
- 墨田区の方が子育て環境が良いと感じる。キャッチボールや花火ができる公園がある
- 区内企業が手持ち花火を配ってくれるが、その花火をやる場所が区内にない。町会単位で予約すればスペースの使用許可をもらえるが、ハードルを感じる
- 台東区は住居費が高い
- 神社で花火をしたことがある。神主さんが許可をくれればできる
- 孫がキャッチボールできる場所がない。北部はスペースがかなり限られている

- 玉姫公園は子供を遊ばせづらい
- 人口動態のグラフを見て、台東区は単身世帯中心であることを実感した。ファミリーに優しくない地域になっている

○不便を強いられている居住環境

- マンションが沢山建っているが、高さ制限するべきではないか。これまで見られていた隅田川の花火が見られなくなっている
- 意外と路地の建物と建物の間から花火が見やすい
- 浅草六区に元々住んでいたが、今はもう住みやすい環境ではなくなってきた
- テニスをやるのに富士小学校でやっているが、予約をとるのに苦労している。日曜日の日中しか使えない。もっと使いやすくしてほしい
- 台東区リバーサイドスポーツセンターは、他区の団体が使ってしまう予約が取れないこともあった

○コミュニティの中心になる商店街

- 衰退した商店街がいたるところに増えている
- オレンジ通りはすたれてしまった。元々店舗だったところも付置義務駐車場になってしまったりしている
- 商店街を歩くと、子どもに声をかけてもらえると親としてもうれしいし安心である
- 公衆の喫煙所とトイレが圧倒的に少ない。増やす取組が必要である
- 金美観通りも、商店街としてすたれてしまった
- 入谷駅から歩いて家に帰る間の道に、お店がなくて暗い

チーム 4

○歴史的価値の保存・再生・活用

- 地域に数多く存在するお寺を地域に開放するオープンハウスを今後行いたい
- 台東区の歴史を感じられるまちづくりが重要である
- ものづくり、昔からの街並み(古い家を含む)、佐竹商店街の歴史を守るまちづくりが重要である
- 浅草見附がもともとあったことを知らない人が多いため、門を再建してほしい
- 数多くある古い建物に対して、何を残していくかといったルール(保存方法等)作りが必要
- 江戸時代等、歴史的な風景等を VR(仮想現実空間)でみられる様にするといいいのではないか
- 昭和感のある街並み保存の支援・補助金制度がほしい
- 区の職員がもっと区の歴史や街並みを理解し、文化に対する意識レベルを上げるべきではないか
- 住んでいる自分の町が変わる必要があるとは思っていない

○地域資源の見える化・発信

- 昔から住んでいる人と新しく来た人が融合したまちが実現すべきである
- 町会活動を一齐に広報する「町会の日」を作るべきではないか
- 地域の魅力を発信する講演会やイベントを開催してほしい
- 街歩きワークショップの参加を通して、地域の魅力を発見している
- 地域資源の見える化を実現した地域マップの作成(紙とデジタルの双方からアーカイブ化)が望ましい
- 情報発信を行う等、活動への金銭的援助が必要である

○コミュニケーション創出・若者の参加促進

- 地域住民とのコミュニケーションが取れる機会の創出をすべきである
- 若い人に参加してもらいながら、町会のイベントの周知を積極的に行い、知名度を上げる活動を実施している
- 文化人等の有識者と出会う機会がほしい
- 地域住民が集まる場を提供してほしい

○その他

- 浅草橋地区のまちづくり勉強会を 3 年間継続している
- JR 浅草橋駅へのバリアフリー陳情を行っている
- 保育園でのイベントやハロウィンイベントを通して子どもたちに楽しい思いをしてほしい
- 他区のまちづくりでの反省を踏まえた仕組みづくりが必要である。特定企業への利益誘導にならないように、デベロッパー等はまちづくり協議会の会員になれないようにしている自治体もある
- 防災面で、国の助成が使える制度を使って安心して住める街になってほしい
- 浅草橋の従来の商売の形が変化して、仕事を継続できない
- 昔の浅草橋を支えた人々が年齢を重ね、活力がなくなっている